

循環障害治療剤

サークレチン[®]S錠25
サークレチン[®]S錠50

CIRCULETIN[®]-S TABLETS 25, 50

カリジノゲナーゼ錠

貯 法：室温保存
使用期限：外箱等に表示

	25	50
承認番号	21300AMZ00691	20600AMZ00069
薬価収載	2001年9月	
販売開始	1988年8月	1994年7月
再評価結果	1999年9月	

【禁忌】 (次の患者には投与しないこと)
脳出血直後等の新鮮出血時の患者
[血管拡張作用により、出血を助長するおそれがある.]

【組成・性状】

販売名	サークレチンS錠25			サークレチンS錠50		
成分・含量	1錠中 日局カリジノゲナーゼ25単位			1錠中 日局カリジノゲナーゼ50単位		
添加物	カルナウバロウ、グリセリン脂肪酸エステル、酸化チタン、ステアリン酸、ステアリン酸マグネシウム、タルク、乳糖水和物、ヒプロメロースフタル酸エステル、マクロゴール6000			カルナウバロウ、軽質無水ケイ酸、結晶セルロース、酸化チタン、ステアリン酸マグネシウム、タルク、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、乳糖水和物、ヒプロメロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロースアセテートサクシネート		
剤形	白色腸溶性フィルムコーティング錠			白色～微黄色腸溶性フィルムコーティング錠		
外形	表	側面	裏	表	側面	裏
	直径約6.6mm 厚さ約3.1mm 重量108mg			直径約7.9mm 厚さ約3.8mm 重量168mg		
識別コード	TZ213			TZ243		

【効能・効果】

下記疾患における末梢循環障害の改善
高血圧症、メニエール症候群、閉塞性血栓血管炎(ビュルガー病)
下記症状の改善
更年期障害、網脈絡膜の循環障害

【用法・用量】

カリジノゲナーゼとして、通常成人1日30～150単位を1日3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 相互作用

【併用注意】 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アンジオテンシン変換酵素阻害剤	本剤との併用により過度の血圧低下が引き起こされる可能性がある。	本剤のキニン産生作用とアンジオテンシン変換酵素阻害剤のキニン分解抑制作用により、血中キニン濃度が増大し、血管平滑筋弛緩が増強される可能性がある。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、そう痒等
循環器	心悸亢進等
消化器	胃部不快感、悪心、嘔吐、食欲不振、上腹部痛、下痢、便秘等
肝臓	AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇、肝機能障害
その他	熱感、頭痛、頭重、眠気、倦怠感

注) 発現した場合には投与を中止すること。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)。

【薬効薬理】

血圧降下作用及び末梢血管拡張作用¹⁾

雌雄麻酔犬にカリジノゲナーゼ0.01、0.03、0.1IU/kgを静脈内に投与した結果、用量に依存した血圧下降と大腿及び椎骨動脈血流量増加作用を示した。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：カリジノゲナーゼ

Kallidinogenase [JAN]

性状：白色～淡褐色の粉末で、においはないか、又は僅かに特異なにおいがある。水に溶けやすく、エタノール(95)又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。本品の水溶液(1→300)のpHは5.5～7.5である。

【包装】

- **サークレチンS錠25：100錠 (10錠×10)
500錠 (10錠×50)
- **サークレチンS錠50：100錠 (10錠×10)
500錠 (10錠×50)

【主要文献】

1) 和泉昭弘 他：診療と新薬, 25：1521, 1988

*【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

あすか製薬株式会社 くすり相談室
〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号
TEL 0120-848-339
FAX 03-5484-8358

製造販売元

あすか製薬株式会社

東京都港区芝浦二丁目5番1号

販売

武田薬品工業株式会社

大阪府中央区道修町四丁目1番1号